

2026年度

風光れ

人権のたより

通算第90号 3月 6日発行

三重県立津東高等学校

梅の花も咲き始めました。風はまだ冷たいですが、春はもうすぐそこです。では、令和7年度「風光れ」いよいよ最終号です。

○ 「道」はひとつではない。「答え」もひとつではない。

日本人を蔑視した表現「日本鬼子（リーベングイズ）」。

この蔑称は2010年9月7日、日本の尖閣諸島付近の海域で違法操業をしていた中国籍の不審船が海上保安庁の巡視船2隻に対して体当たりを行った、いわゆる「尖閣諸島中国漁船衝突事件」を起因とするデモが中国で発生したことを日本のTVなどが報道したことで、日本人に広く認知されるようになりました。

これに対して、日本のインターネット上の巨大電子掲示板において、なぜか「日本鬼子（ひのもとおにこ）」という、いわゆる「萌えキャラ」をつくらうという動きが発生し、実際に何人かの人によって、そのキャラクターの絵まで描かれました。

（なお、日本鬼子（ひのもとおにこ）は2020年にはVtuber化して現在も活動しているようです。）

また、別の蔑称である「小日本（シャオリーベン）」も「小日本（こひのもと、こにぽん）」として萌えキャラ化されています。

つまり、相手が罵倒するつもりで使用してきた蔑称に対して怒りや憤り、悲しみではなく、その蔑称をパロディ化して平和的に別の意味に置き換えてしまおうという「答え」を出した人たちがいたわけです。

このキャラクターの登場は中国の人たちだけでなく世界的にも衝撃的であつたらしく、当時、日本だけではなく台湾のTVニュースや、イギリスの新聞でも報道されました。

問題を解決する道はひとつではなく、その答えもひとつではない。「日本鬼子（ひのもとおにこ）」は、その一例として考えることができるのではないのでしょうか。

○ あなたも私も“ちょっぴり”レイシスト ～～ 自分の中の差別性を認めよう ～～

あまり上品ではないアメリカのアニメ「South Park」をご存じでしょうか。切り絵風のちょっとレトロな画風ながら、人種差別や宗教、政治経済に国際問題など、ありとあらゆるタブーや社会問題に対し、ステレオタイプを強調して過激に風刺するその内容は、人によっては「差別的な表現」として眉をひそめてしまうだろうと思われま

ただ、世の中にあるさまざまな問題に対して、ちょっとそれは話題にしないでおこうと、それらから目をそらすのではなく、無意識に持っている先入観や差別性を直視して、それらを助長するのではなく、あくまでナンセンスなものとして風刺して笑い飛ばす。そのようなスタンスもまた、問題を解決する一つの手段ではないのでしょうか。

令和7年度「風光れ」はこれにて終了です。一年間、ありがとうございました。



AI 作画による

「日本鬼子（ひのもとおにこ）」の例